

平成28年度 第3回西淀川区教育行政連絡会（小学校）議事要旨

日 時：平成29年2月22日（水）10:00～11:15

場 所：区長応接室

出席者：（小学校） 姫里小学校長・姫島小学校長・福小学校長・大和田小学校長・香簾小学校長・
歌島小学校長・出来島小学校長・佃西小学校長・佃南小学校・御幣島小学校長
（区役所） 塩屋区長・橋本副区長・高安教育支援課長・九之池教育支援課長代理・小林教育
支援担当係長・若松係員

1 3Dプリンタ期末報告について

（区役所）

○区役所からの報告

（1）3Dプリンタ等の購入について

- ・区役所において3Dプリンタ、パソコン、3Dモデル作成ソフト、フィラメントという材料等を購入した。
- ・操作上の疑問について相談いただけるコールセンターも購入条件に入れさせていただいた。
- ・ソフトは既にパソコンにインストールしている。
- ・材料は1巻きで、3cm角のサイコロが80個ほど作れるようである。
- ・総額で57万円程度、3Dプリンタ本体のみであれば20万円程度である。

（2）教職員対象操作説明会

- ・2月9日（木）・15（水）に教職員向けに操作説明会を開催した。

①3Dプリンタ本体操作説明会

- ・受注業者のリコージャパン株式会社と納入した3Dプリンタメーカーの武藤工業株式会社により、本体の操作方法等を説明。
- ・小学校9名、中学校3名、区役所職員8名が参加し、3Dプリンタの出力方法等の説明後、実際に3Dプリンタで出力した。先生方は3Dプリンタが動く様子をのめり込むように見ている。

②3Dモデル作成ソフト操作説明会

- ・受注業者のリコージャパン株式会社と納入した3Dプリンタメーカーの武藤工業株式会社、3Dモデル作成ソフトメーカーのアンドール株式会社により、ソフトの操作方法等を説明。
- ・小学校3名、中学校4名、区役所職員4名が参加し、納入したソフト「ぶろっくメーカー」を実際に操作してもらい、3Dモデルを作成する体験を行った。中には、短時間で複雑な立体モデルを作成する先生もいた。

③3Dモデル作成ソフト紹介チラシ

- ・3Dモデル作成ソフトについては、2種類購入している。

- ・今回説明会を実施させていただいたのは「ぶろっくめーかー」といい、「小学校低学年からでも使える」とあるように、ブロックを積み上げていく感覚で操作していく、比較的簡単に慣れていただけるものである。とはいっても、様々な形が作れ、立体感覚と創造性を小さい頃から育むには最適ではないかと考えている。
- ・もう一つの「シェード3D」については、中学校の技術の先生など得意な先生方向けに準備させてもらった。テキスト付のものを購入しているので、どんどん挑戦していただきたいと思っている。
- ・貸し出しを希望する学校については、説明会資料やテキストブックも含め、パソコン、材料等全てセットで貸し出しさせていただく。また、区役所に来て使っていただくことも可能である。

(3) アンケートの結果

- ・今回も参考になったという声を多数いただいて、うれしく思っている。
- ・参加いただいた先生方は、実際子ども達が見えるのかということ念頭に置いて説明会を受講いただいたようで、「子ども達はのめりこみそう」「こんな使い方であればできるのではないかなど、積極的なご意見をいただいた。また、研究会で活用に向けてまとめていきたい。
- ・パソコン環境を課題としてあげていただいたが、活用方法を検証したうえ、パソコン教室内のパソコンへのインストールにもつなげていけたらと思っているが、これから検討していきたい。
- ・また、全ての学校に操作説明は難しいが、参加したくても日程的に難しかった先生方もおられるので、マニュアル作りも含めどのようにフォローできるか検討していきたい。

(4) 今後の予定

- | | |
|------|--|
| 3月 | <ul style="list-style-type: none"> ・操作時に必要な道具であるニッパーなどの購入 ・研究会協力企業の募集方法を調整 ・区役所で3Dプリンタのセットから出力までの簡単マニュアルを作成 |
| 4月以降 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究会メンバーの募集（企業は継続） ・学校には協力いただける先生を募集させていただく。校長先生でも、その他興味をお持ちの先生でも、どなたが来ていただいてもありがたい。異動などもあると思うが、現在いる先生方含め、新しく異動して来られた先生方の中に興味のある方がいないかぜひ探していただき、お声掛けいただきたい。 ・研究会メンバーを優先に貸出を開始。先生方には「何を作ったか」「作成時間はどれくらいか」「何か問題点はあったか」など、課題の洗い出しやモデルケース、マニュアル作成にご協力いただきたい。 |
| 1学期中 | <ul style="list-style-type: none"> ・第1回の研究会の開催 |

○質問など

(小学校)

- ・材料等の消耗品は、学校側が負担するのか。
- ・1個出力するのにどれぐらい時間がかかるのか。
- ・ソフトをインストールしたパソコンがたくさんあれば学校の授業でも使えると思う。

(区役所)

- ・材料となる消耗品は区役所で購入しているので、学校側の負担はない。
- ・出力の時間については、中身の密度等にもよるが、3cm角のサイコロ1個で30分程度である。
- ・3Dプリンタで出力しなくても、3Dモデル作成ソフトを使用してプログラミングの学習等はできるので、今後ソフトや使用できるパソコンを増やしていくことを考えたい。
- ・まずは、有効に活用できるか検証する必要がある、活用事例を積み上げていただきたい。

2-1 発達障がいサポーター事業について

(区役所)

平成 29 年度西淀川区インクルーシブ教育応援サポーター事業について（発達障がいサポーター事業からの拡充）

(1) 概要

- ・区長が夏に区内全小中学校を個別訪問し、意見交換を実施した際、サポーター事業の拡充を求める声が多くあったこと、また、障害者差別解消法の施行など国での動きや大阪市としてもインクルーシブ教育を推進していることから、区でもインクルーシブ教育応援サポーター事業として拡充することとした。

(2) 変更点

・対象者の拡充

先生方から対象の児童生徒が増加しているというお話を伺った。また、大阪市全体でインクルーシブ教育の推進が図られていることから、発達障がいの可能性がある児童生徒や特別支援学級に在籍する児童生徒も含め「支援を要する児童」と幅広く捉えることとした。

年間当初の申請時に、支援を要することがわかるように、各児童の状況をご記入いただきたい。

・活動単価の改善について

人材確保の観点より、現在の大阪府最低賃金に引き上げる。

・校外活動における支援の拡充

①校外活動の交通費上限の引き上げ及び支給対象に施設入館料等を追加

昨年8月に実施したアンケートで「交通費の上限引き上げ」「施設入館料などの支援」の要望が多かった。

②校外活動を含めた行事における活動時間の拡大

①と同様、アンケートで要望があった。また、区長学校訪問時にも「小学校高学年以降は、準備から帰り支度まで合わせると7時間は必要」等の意見があった。

(3) 予算

- ・区の前年度については、全体で前年度比3%カットするように指示が出されている中、区長が先生方の意見を聞き、子ども達の教育環境の充実を図ることが重要という判断から、この事業については削減することなく、大幅にアップすることとした。

(4) スケジュール

- ・平成29年度年間スケジュール(予定)の説明
- ・予算上は配置時間の拡充を図るが、年々各校の希望時間が増えている状況であり、全ての要望に応えることができないものではないと考えている。
- ・学校によっては、今年度当初、発達障がいサポーターの配置時間数が足りなかったところがあると思うが、平成29年度についても年度当初は、申請どおりの配置はできないと思っていたらきたい。
- ・ただし、今年度も実施させていただいたように、年度途中の再配置をきめ細かくさせていただき、できる限り有効に分配できるようにしたい。

(5) その他

- ・教育委員会事務局所管の特別支援サポーター事業と混同されることも多いので、参考に事業比較表を添付している。
- ・局と区で重複する事業は認められないことから、拡充するにあたって随分説明を求められた。比較表下の太字部分にあるように、区の事業は教育委員会事務局事業の補完であるため、両事業をよくご理解いただいたうえ、活用いただきたい。
- ・特別支援サポーター事業について情報提供であるが、教育委員会事務局に確認したところ、予算決算の乖離が少しあるようである。区の事業と同様、年度当初は希望時間どおり配分されないようであるが、年度途中の追加も可能と教育委員会事務局には確認している。昨年度、西淀川区内でもいくつかの学校が年度途中の申請で配置が認められたので、年度当初の配分が希望どおりなくても、年度途中の再申請を検討いただければと思う。

○質問など

(小学校)

- ・発達障がいサポーター事業の配置申請は週あたりの時間か。
- ・サポーターの人材は学校で見つけるのか。
- ・市と区の事業を組み合わせ、特別支援サポーター5時間、インクルーシブ教育応援サポーター3時間として1日従事してもらうことは可能か。

- ・市の特別支援サポーターの補完として、区の発達障がいサポーターを使っているが、3時間では足りないことが多々ある。長時間利用も認めてほしい。また、子ども達に接する重要な役割で、質の高い人材を確保する必要があるのに、報酬の単価が低いと感じている。単価を上げると人材が集まると思うので、引き続き考慮していただきたい。
- ・今回の予算拡充は非常にありがたい。各学校とも人手がいれば助かるのは当然で、希望としてはいくらでも欲しい。しかし、今までの変遷を見て分かるように、いろいろと改善してもらっている。学校としては、精査しながら希望を伝えるべきであり、各校の共通理解が必要であると思う。

(区役所)

- ・インクルーシブ教育応援サポーターの配置申請については、年間時間数で申請いただく。配置時間数が決定したら、その時間で年間スケジュールを組んでいただきたい。
- ・サポーターの人材については、各学校で探していただいている。
- ・市の特別支援サポーターと区のインクルーシブ教育応援サポーターの併用は可能である。まさに区のインクルーシブ教育応援サポーターはスポット利用のための事業であるので、市の特別支援サポーターと併せて活用していただきたい。

2-2 学校支援サポーターの募集について

(区役所)

- ・発達障がいサポーターに限らず、いろいろな事業で人材確保に困っているという意見があった。
- ・また、教育会議の委員から「募集されていることを今まで知らなかった」「自分が何かできることがあればお手伝いしたいが、どこで募集されているか知らない」といった意見があったことから、区役所でも協力できることはないか検討した結果、ボランティア等の募集について広報紙へ掲載することを考えた。一覧表を作成し、各校希望するボランティア内容にチェックしていただくことを考えている。
- ・学校により違いがあると思うが、ある程度共通する項目に絞らせていただきたい。
- ・広報紙に掲載するには2か月前には登録しなければならないので、タイムラグがあることはご了解いただきたい。ただし、募集情報を随時見ていただくことや、学校独自の取組で人材募集されていることもあると思うので、区ホームページにも掲載し、また、各校ホームページへのリンクも貼らせていただき、少しでも多くの方の目に触れることができるよう検討している。
- ・今回の配らせていただいた表はたたき台として作らせていただいた。
- ・区役所では、学校にどのようなボランティアが入っているか全て把握できていないため、追加修正などはぜひ校長会でまとめていただけたらと思っている。その後、区役所で中学校と調整させていただき表を完成させたいと考えている。
- ・表完成後、各校にチェックしていただくよう照会するので、早くても6月号広報紙の掲載になるかと思う。

○質問など

(小学校)

- ・有償ボランティアの募集か。有償となると報酬の予算を学校は持っていないので、問い合わせがあっても対応できないことがある。
- ・人材バンクのような手法にできないか。直接学校に問い合わせがくるとなると、断る場合の断り方が難しい。区役所でワンクッションあると、経歴、特技、人柄等の最低限の確認をしてもらえてありがたい。
- ・学校としては非常にありがたい。面接等をして人を見るのは学校の責務と考えている。予算があっても人材がないのが自分の学校の課題であるので、手間がかかると思うが、一度だけでなく定期的に掲載していただけたらありがたい。

(区役所)

- ・有償無償を掲載している区もあるが、今のところ各校に個別で問い合わせてもらおうという掲載方法を予定している。しかし、ご希望があれば有償無償を掲載することも可能である。掲載の仕方については校長先生方に相談していきたい。
- ・市の人材バンク制度があり、そこに発達障がいサポーターも掲載してもらっている。人材バンクについては、区役所から紹介されて断りにくいという声もあり、募集をやめた区もある。
- ・人材が全然集まらない学校もあると聞いているので、引き続き先生方からご意見をいただきながら、できることから協力していきたい。

(募集の内容については、幹事校長が各校に確認して、まとめることで了承を得た)

3 その他

(区役所)

- ・区役所において、図書を通じて多世代が交流する事業を実施しており、区内の図書環境の充実に向けて取り組んでいる。教育会議でも、子どもが小さい時から本に親しめる家庭環境が重要であるという意見があり、幼少期の早い段階から親子で図書に親しむことを促すため、区役所で実施している乳幼児健診等の際に、図書に関するチラシを配付することを考えている。
- ・市立図書館のICTの取組として、4月から図書館デジタルアーカイブの画像がオープン化される。無料で使用できるとのこと。

(小学校)

- ・次期学習指導要領にプログラミング教育の必修化が盛り込まれている。プログラミング教育関連の本があるようで、学校での購入も予定しているが、予算を圧迫するので大量には購入できないため、図書館に置いて借りられるようにしていただければありがたい。

- ・「運営に関する計画」について、市が制定した2つの目標の達成に向けた取組により計画を立て、区担当教育次長が評価するとなっているが、区として何か方向性を示すことを考えているか。
- ・校長経営戦略支援予算について何か分かっている話はあるか。
- ・体験学習の一環として、地方に姉妹都市などがあれば、稲刈りや田植えなど、都会では体験できないような取組ができると思うが、区として協力してもらえないか。例えば、校庭に雪を持ってきて雪遊びをするなど。
- ・ネットとスマホと睡眠など教育に関する講演会などを開催しようと思うとお金がかかり学校単位では難しい。区単位でも検討してほしい。

(区役所)

- ・プログラミング教育関連の本については、図書館に情報提供していく。
- ・「運営に関する計画」について、区としての方針等は考えていない。あくまで学校が立てる計画であり、区レベルでの取組ではなく校長のマネジメントである。
- ・校長経営戦略支援予算はまだ何も情報は入っていない。
- ・ネットとスマホと睡眠に関する講演会については、青少年指導員連絡協議会の研修で実施された。また、そういう情報をお渡しすることもできる。